

新発田市 令和8年度 第4回定例記者会見(HP)

- 1 日時 令和8年6月30日(火)午前11時～
- 2 場所 ヨリネスしばた501会議室
- 3 内容

【市長発表項目】

経済対策

○新発田版物価高騰対策

補正予算により実施する物価高騰対策について周知したい。

一般事項

○新発田台輪300周年「300年目の夏が、ついに、始まる。」

台輪運行 300 周年を記念して実施する、記念コラボ商品や記念事業、アクティビティを PR したい。

○「第1回モルック交流大会 in いじみの」

地域おこし協力隊がサポートして実施する、新たな交流のツール「モルック交流会」を PR したい。

○小学生による未来型農業体験会を実施します

キネス本田でスタートした、スマート農業による「イチゴ栽培」などの取組を小学生が体験する事業を PR したい。

【その他】

- 新発田台輪 300 周年記念商品の販売について
- 新発田台輪 300 周年企画展「新発田の祭り」
- 外国人住民向け「暮らしのガイド」が完成
- つなぐ 10 年、ひろがる未来 イクネスしばた 10 周年感謝祭
- 藤塚浜海水浴場安全祈願祭及び海開き
- 「ねこ展 in 蔵春閣」「ねこフェス in 文化会館」を開催します
- 誰もが働きやすく、活躍できる職場づくりのためのヒント
- 「合唱のつどい」
- サマーフェスティバル 2026
- 映画「ハッピー☆エンド」上映会

あいさつ

- 過去に例がないほどたくさんの方にお集まりいただき、ありがとうございます。また、本日はエフエムしばたの職場体験で3名の生徒さんも参加しております。しっかりと学んでいただければと思っています。
- いつ雨が降ってもおかしくない梅雨の時期ですが、6月上旬に寺びらきや闇びらきなどの五大びらきを開催させていただきました。天候に恵まれ、昨年よりはるかに大勢の方にお越しいただき、たいへん盛況でありました。また、五十公野公園のあやめまつりも、昨年が50万人くらいでしたが、今年はおおよそ60万人を超えたと報告がありました。いずれも天候が良かったおかげだと思っています。少し前にアベック台風も発生しましたが、おかげさまで本市には影響がありませんでした。このまま、ゲリラ豪雨や災害につながるような気象にならないことを祈っております。
- 本日は会見内容の前に、私事について触れさせていただきます。今年の11月で4期目の任期が満了します。これまでも、5期目をどうするかと、市民の皆様から声を掛けられておりましたが、今年の3月に後援会の総会があり、その折に動議という形で「5期出馬の決議」の採択をいただきました。とてもありがたいと感じましたが、ちょうどその時期は、新年度予算の目途が立ったばかりでした。後援会の皆さんには、「去年はももクロのイベントでスタートダッシュをしたが、今年は昨年より大きな予算を組んだので、これによりスタートダッシュをしたい。そのため、出馬に対する回答は少し待つてほしい。なにより、県知事選が5月にある。2期8年間花角さんを支えてきたので、3選に向けた応援を集中して行いたい」という2つの理由により、後援会の皆さんに待つていただいております。
- 6月議会の一般質問で出馬についての質問もいただきましたが、その時点では、後援会の皆さんとの最終の話合いが済んでいなかったもので、明確な回答はしませんでした。その後、後援会の

皆さんから「あなたが5度目の出馬を望むなら、我々は精いっぱい応援するのでしっかりやってもらいたい」と激励の言葉をいただきました。過去に病気も患いましたがいずれも完治し、体力的にも市長職という激務にも耐えうると判断し、本日の記者会見を通じて、5期目の出馬声明とさせていただきます。

○私は「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばたの創造」を旗印に16年間を取り組んできましたが、この旗を降ろすことはなく、より高く掲げて進めていきたい。政策的には「健康長寿」「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」を4つの視点として進めていきます。この4つ視点は、ようやくここにきて形になりつつあると感じています。当市を含めた全国の市町村が人口減少に苦しんでおりますが、新潟県の20市において、当市の人口減少率が、新潟市、燕市に次いで、三番目に少なくなっています。当市の次は、長岡市、上越市と続きますが、大都市である長岡市や上越市を抑えて県内3番目でした。また、2025年の社会増減において転入が転出を上回り、ここにきてようやく健康長寿や少子化対策の効果が出てきたと感じています。この芽をさらに伸ばしていきたいと考えているところです。

○産業面では、当市には学校統合により閉校した校舎がたくさんありますが、これを産業振興に生かした施策として、オーガニックの拠点として「キネス天王」を最初に立ち上げました。おかげさまでたくさんの企業から入居希望をいただき、現在は満室となりました。そのため、さらに発展させた形のものとして「キネス本田」を造りました。ここには世界的な製薬会社であるバイエルクロップサイエンス社や、越後姫の通年栽培という未知の世界に取り組む事業者が入居し、「キネス天王」と同様に盛況な状況となっています。また、閉校舎の敷地のほか、箱岩地域に高速道路の土取り場の跡地に広大な土地もあるので、これらの土地を活用し産業誘致をより本格的に展開していきたいと考えています。

○5期目のまちづくり実行プラン（マニフェスト）については、

バージョン4を土台として新たな実行プランをスタッフや後援会の皆様と相談しながらしっかりと作成し、市民の皆様にお示しし、5期目に挑戦させていただきたいと考えております。

それでは、会見項目を説明いたします。

はじめに、国の重点支援地方交付金の活用による「燃油高騰対策」「緊急経済対策」についてです。

○これは、地方公共団体が地域の実情に合わせて必要な支援をきめ細やかに実施できるよう、国が補正予算(第1号)を編成し、重点支援地方交付金を追加したものであります。

○当市では主に、物価高騰の影響が著しい農業者、観光事業者、建設業・製造業・運輸業の事業者に対し、緊急の支援を行うことといたします。

○交付金の性質上、迅速な予算化が必要であったことから、昨日の市議会最終日に補正予算の採決をいただき、当市において物価高騰対策として真に必要な事業を精査し、実施してまいります。

○では、個別の事業を御説明いたします。

はじめに、「農業者向け支援」についてです。

- 当市の基幹産業である農業におきましても、肥料や飼料、光熱動力費などの高騰が長期的に続いており、農家の皆様も大変苦労されているところであります。
- そのような中、令和8年1月市議会臨時会において御承認いただいた、「燃油価格高騰対策緊急支援事業」により、肥料等の農業用資材の高騰が著しい水稻農家や施設園芸農家などを対象に、今後の経営継続に重点をおいた、物価高騰に伴うかかり増しに対する経費の支援をさせていただくこととしました。
- 生産者においては、米価高騰の影響もあり、主食用米の作付けが増加し、非主食用米の不足が懸念されましたが、本事業により、想定を大きく上回る作付誘導につなげることができました。
- しかしながら、結果的には1月臨時会で御承認いただいた想定面積を大きく上回ったことから、追加予算により、当初見込みの令和8年産における加工用米及び輸出用米の作付面積1,450haを超過した分、170haの追加支援を行うものであります。
- また、施設園芸につきましても、中東情勢の悪化により、資材費や燃油価格の高騰による影響を緩和するため、加温施設を有する施設での作付面積に対し、かかり増し経費の支援を行うものであります。
- このように世界情勢の影響により、当市の基幹産業である農業へも大きな影響を及ぼしております。長期化している物価、燃油などの高騰による影響を緩和し、経営の下支えを行いながら、生産基盤の強化を図ることにより、持続可能な農業を確立してまいりたいと考えているところであります。

次に、「観光事業者向け支援」についてです。

- 宿泊事業者や観光宿泊者への支援として、今・得キャンペーン 2027 冬の陣 宿泊プランを実施いたします。
今回は、5,500泊分の宿泊支援の実施を予定しております。
- 期間は、令和9年1月下旬から2月下旬の宿泊分までの1か月間とし、年末頃からの販売開始を予定しております。
- 今回は、今・得キャンペーン 2026 宿泊プランの春の陣、秋の陣に続く、正月明けの閑散期を狙ったプランであり、切れ目なく月岡温泉や市内旅館・ホテルの宿泊需要が継続していくことを目的としたシームレスな支援といたしました。
- 今回のキャンペーンでは、平日の対象プランの御利用で、1人1泊2食で5,000円、1泊朝食のみで2,000円を割り引くほか、新発田牛^{うし}を使った特別な宿泊プランを御用意いたします。
- コロナ禍以降、資材や食材、光熱費など様々な価格が高騰し続けております。
当市の重要な観光産業である月岡温泉をはじめ、市内旅館・ホテルをしっかりと支援していくことで、宿泊業におけるサプライチェーンを支え、地域経済や観光需要の活性化を図ってまいります。

新発田版物価高騰対策の最後は、商工業事業者向けの「燃油価格高騰対策事業者支援金」についてであります。

- 燃油価格の高騰に伴い、日々厳しい環境に置かれている事業者に対し、事業継続に向けた支援金 3 万円を給付いたします。
- 支給対象は、今般の中東情勢の長期化による燃油価格の高騰に伴い、特に影響が大きい建設業、製造業、運輸業に携わる事業者の皆様であります。
- また、限られた財源を最大限に活用するため、支給要件を市内に本社又は本店を有する常時雇用の従業員 19 人以下の小規模事業者とさせていただきます。
- この 3 万円の支給は、事業者の負担を全て解消する損失補てんではなく、燃油価格の一部負担軽減を図る応援金という位置付けではありますが、迅速な支援により建設業、製造業、運輸業に従事する小規模事業者の皆様の事業継続をしっかりと後押ししてまいります。

続いて一般事項に移ります。

はじめに、新発田台輪300周年「300年目の夏が、ついに、始まる。」についてです。

○新発田台輪運行 300 周年を記念して、今年だけの「買いたい」「知りたい」「体験したい」記念イベントを実施いたします。

○はじめに、『買いたい』についてです。

市内の10事業者・団体が趣向を凝らし、300周年を記念して、特別な商品を開発しました。サマーフェスティバルの特設ブースやまちなか観光案内所でも販売を予定しておりますので、多くの方に購入していただきたいと思います。

○続いて、『知りたい』についてです。

先日、市内のこどもたちに向けた台輪の体験会を札の辻広場で開催し、多くのこどもたちに参加していただきました。このイベントをはじめとして、様々な企画をスタートいたします。

歴史図書館では、7月4日(土)から「新発田の祭り」と題して、新発田まつりや新発田台輪など、城下町に継承されている歴史を紹介する古文書や絵図などを展示します。

蔵春閣では、7月17日(金)から「新発田台輪300年の記憶」と題して、貴重な写真や映像で新発田台輪を振り返る企画展を開催します。

○最後は、『体験したい』についてです。

台輪300周年を祝い、台輪の特別運行を行います。

27日早朝の奉納台輪では、諏訪神社神門前にて6台の台輪が並び、職人町の獅子舞や諏訪神社の宮司がお祓いを行い、一斉あおりを行います。

29日の夜の帰り台輪では、6台の台輪が中央町交差点まで運行し、勇壮な一斉あおりで300年目の夏を締めくくります。

是非、多くの方に体感していただきたいと思います。

続いて、「第1回モルック交流大会 in いじみの」についてです。

- 当市では、市内に10か所あるコミュニティセンターの利活用促進を目的として、地域おこし協力隊を配置しています。
- 地域おこし協力隊の出張講座に「モルック体験」を設けたことで、気軽に楽しめるモルックが口コミで広がり、五十公野・七葉・佐々木の3コミセンでモルックサークルが設立されました。
モルックによる地域間交流がさらに広がるよう、地域おこし協力隊主催の「モルック交流大会」を初めて開催いたします。
- フィンランド発祥の「モルック」は、モルックという木の棒を投げて、1から12の数字が書かれた的を倒すスポーツです。投げるだけの簡単な動きで、こどもから大人まで、年齢や性別を問わず、だれでも気軽に楽しむことができます。
- 今回の交流大会では、参加者の皆さんがモルックを通じて楽しく交流できる場を提供します。地域間交流が広がるきっかけづくりを目的として企画しました。当日は、所属サークルに関係なくチームを組み、対戦を行う予定です。
- ルールが簡単で、経験がなくてもすぐに参加できるため、すでにサークルでモルックを楽しんでいる方はもちろん、初めての方にも楽しんでいただけます。ぜひ多くの皆さんにご参加いただき、大いに交流していただきたいと思います。
- 地域を元気にするためには、住んでいる方が元気であることが重要です。地域おこし協力隊が企画したこの事業が、地域の賑わいづくりのきっかけとなることを期待しています。

最後に、小学生による未来型農業体験会を実施します、についてです。

○3月27日にオープンしたキネス本田にて、豊浦小学校の児童を対象に、未来型農業体験会を実施します。

○農業は、「きつい」、「汚い」、「危険」の3Kであると、誰が言い始めたことでしょうか。しかし、これからの農業は、「稼げる」、「効率的」、「かっこいい」という新たな3Kをキネス本田から発信します。

○新発田市の基幹産業は農業です。現在も米作りを基盤とした農業が産業の核となっていますが、農業現場では、農家の高齢化をはじめとする担い手不足、米価の乱高下による経営の不安定化、農業機械や資材の高騰など、幾多の課題が山積しています。

○新発田市は、この課題に正面から向き合い、「スマート農業」の推進による省力化やLEDによるイチゴ栽培など、新たな取組をスタートしました。

○越後姫栽培は、本来2月から5月が最盛期ですが、LEDによる完全室内での越後姫栽培は、あえて8月～12月に収穫できるよう育成することで、越後姫のPR大使と位置付け、県内はもとより広く県外や海外も視野に広めていくことを目的に「イチゴと言えば新発田。新発田と言えば越後姫」を目指し、官民挙げた取組を進めています。

○今般の小学生による社会科見学では、農業用ドローン、自動化機械の模擬運航などのスマート農業による省力化や、LEDを活用した完全室内栽培によるイチゴ(越後姫)の通年栽培の取組をこどもたちに紹介し、実際に体験してもらうことにより、農業に対しての知識を深め、農業は「稼げる」、「効率的」、「かっこいい」と感じてもらうことをテーマに実施します。

○当日は、キネス本田に入所している「バイエルクロップサイエンス株式会社様」、「株式会社富山様」、「株式会社新発田ファーム様」に御協力をいただき、それぞれ企業の特徴を生かした魅力をこどもたちに伝える予定であります。

こどもたちの目がかがやき、心がときめくその瞬間を逃すことなく、是非、取材にお越しくださるようお願いいたします。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を御支援いただきますよう、よろしくようお願いいたします。